



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.82
北六甲の歴史点描
／ 鎌田 和見
2010年1月発行

第82回テーマ： 北六甲の歴史点描



山田の里・無動寺の
たたずまい

実施日：平成22年1月16日（土）
午後1時～3時20分
場 所：六甲山地域福祉センター



講師：^{くわた かずみ} 鎌田 和見さん

プロフィール

1956年生まれ、53歳、長崎県出身。昭和54年岡山大学教育学部特設美術科卒業。神戸市教員として、養護学校・各小学校勤務。1996年から神戸市立博物館勤務、神戸市教育委員会勤務後、唐櫃小学校勤務。再び博物館勤務を経て、平成21年から藍那小学校勤務。

講演内容

- 昔の唐櫃
- 藍那の里山
- 北六甲の魅力

地域福祉センターの給湯器の水も凍った

午前中の環境整備活動では、二つ池の水は大人が乗ってもびくともしない硬さでした。六甲山地域福祉センターでは給湯器の水が凍って、ぜんざいづくりの水の確保に焦りました。午前7時で-10度、厳寒の六甲山を味わいました。

鎌田さんの「歴史点描」は見るのが楽しみ

鎌田さんに藍那小学校で、「北六甲の歴史点描」とロマンチックなテーマに決めてもらいました。大学で美術専攻し、博物館で歴史研究された経歴から、「目で見て楽しむ」地域・歴史のお話になると期待しました。

市民セミナーには奥様とご一緒に、奥様は「年末年始はずっと資料づくりで過ごしていました」とのこと。

北六甲全体の歴史的なつながり、昔の棚田の風景や建物などの情趣豊かな写真などで、「見せる工夫」が凝らされており、参加者は居ながらにして歴史探遊を楽しませていただきました。



丹生山系遠望

北六甲の地形から歴史の流れも一望

講演では、六甲山系と丹生（たんじょう）山系という二つの山塊に囲まれた地域が北六甲になると、地形的な位置づけや気候的な特徴を明確にされました。

続いて唐櫃の由来と歴史を説明された。平清盛が唐櫃の多聞寺に力を入れた経緯から、唐櫃には今でも京都の文化が残っている。江戸時代になると、六甲山越えの抜け荷のルートとして注目されるようになる。明治には六甲山を巡る争いが起こり、決着は長引いた。唐櫃村が小学校を建設するために、山上の土地を阪神電鉄に売却したことから、

一気に六甲山の開発が進んだ。

藍那は「あいの」、播州と摂州の中間の意味から来ており、義経道などが有名で、昔からの重要な街道であった。集落は100戸程度だが、明治時代に農村舞台が3つもある豊かな村であった。日本の原風景を絵に描いたような里山があり、多くの研究者やNPOが注目して環境調査・保全に来訪している。

藍那を含む13ヶ村は山田の庄に属し、かつて平清盛が丹生山に月参して賑わった豊かな地域であった。平安期の寺社や仏像など優れた文化財が残っていると、話題は続きました。

北六甲を訪ねたいという声が高まった

昔の唐櫃の棚田の写真は不鮮明であったが、現在の変容と較べて衝撃的であった。藍那の辺りで懐かしい原風景を目にできるというお話に、「ツアーをしよう」と声が上がりました。昨年12月の第81回市民セミナーの有馬温泉に引き続いて、今回の市民セミナーで北六甲の全体像に目を広げました。

※詳しくは、1、2ページをお読みください。

参加の感想 林 千寿さん

神戸に住んでいながら毎日眺めているにもかかわらず、六甲山に入る事がなかったのです。縁があって、1年半前に初めて来てみると、色んな魅力があるんですね！

今日は南六甲も知らない状態で北六甲のお話についていけるかな？と、不安半分での参加でしたが、興味深いお話が拝聴できて、大変嬉しく思っています。出来るだけ毎回参加したいなあと思いました。ありがとうございました。



【助成金をいただいている機関】

イオン環境財団、大阪コミュニティファンド、公益信託自然保護ボランティアファンド、公益信託TaKaRaハーモニストファンド

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会



第82回テーマ：北六甲の歴史点描



第82回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:05～13:15
2. 講演：13:15～14:30
3. 休憩：14:30～14:55
4. 質疑応答：14:55～15:30

講演

- 昔の唐櫃
- 藍那の里山
- 北六甲の魅力



「ぜんざいサービス」に舌鼓

講演の挨拶（鎌田 和見さん）

神戸市で一番小さい、全校児童16名の藍那小学校に勤務しています。以前唐櫃小学校にも勤務していました。専門は美術ですが、博物館にいた関係で歴史にも携わりました。今日は北六甲のエリアの良さを感じていただければうれしいです。



鎌田さん

講演内容

1. 昔の唐櫃

■南北で気候が違う

北六甲は六甲山系と丹生(たんじょう)山系の2つの大きな山塊がある。唐櫃・大池が分水嶺で、唐櫃から流れた水は武庫川に注ぎ、大池からは山田を通り加古川に注ぐ。藍那の方は明石川に注ぐ。六甲山の南側は瀬戸内気候だが、北側は内陸性気候で冬は寒い。唐櫃小学校時代、凍ったプールに乗ったことがある。植生も少し異なり、北側は針葉樹が多い。



山に囲まれた唐櫃

■唐櫃の由来



唐櫃

唐櫃は普通「からびつ」と読み、フタと脚のついた箱のこと。「からと」と呼ばれるようになった理由には3つの説がある。

①**神功皇后説**：神功皇后が三韓征伐の帰途、宝物を唐櫃(からと)に納めて埋めたという伝説から。②**地形説**：四方を山に囲まれている地形を「からと」と呼ぶことから。③**古墳説**：遺体を入れる棺「屍櫃(かろうと)」に由来するという説。私自身は、地形説が一番妥当だと思っている。

■平清盛と唐櫃

平清盛が遷都した福原から見ると、唐櫃は鬼門の方角に当たるため、清盛は唐櫃の多聞寺に力を入れたり、京都大原から人を移住させたりした。唐櫃の人たちが自分たちのことを「こち」、お前様を「おごりょう」と言ったりして、言葉や文化が少し異なるのは、今でも当時の京都の文化が残っているからだろうか。

■多聞寺と四鬼家

六甲山を歩くと、あちこちに「四鬼家」「多聞寺」の名前が出てくる。シュラインロードの行者堂の石像には「四鬼尊像」とあり、心経岩には発起者に四鬼さんの名前が彫られている。四鬼家は六甲山を開いた役行者の子孫だと言われている。



行者堂

お寺には山号があるが、多聞寺は「六甲山」の号を持っている。多聞寺と四鬼家はペアになっており、六甲山一体に何らかの大きな影響力を持っていたのだろう。

■抜荷の道

江戸時代に抜け荷の道の重要なルートとして注目される。道場一生瀬一昆陽など決められた街道や宿場は料金が高かった。そこで六甲山越えの抜け道がつくれ、酒米など色々な商品が運ばれた。

■六甲山の「山論」

多くの人が薪炭等を求めて山に上がるようになると、入会権をめぐる争いが頻発した。江戸時代には、南山麓の16ヶ村が唐櫃に使用料を払って芝草を刈らせてもらっていた。六甲山の三国岩は境界石で、三国とは隣接する菟原、八部、有馬の三郡を表している。

明治に入ると裁判になり、大正15年の入会権解消問題へとつながっていく。

■六甲山の開発

明治になると六甲山の開発が始まった。開発の契機をつくったのがイギリス人グループだった。唐櫃の人たちはグループに協力して信頼を得ていたようだ。山上のゴルフ場は当初唐櫃村民からキャディを雇った。そこから宮本留吉という日本初のプロゴルファーが出ている。

その後唐櫃村は、小学校を建設するために山上の土地を阪神電鉄に売却した。売却をきっかけに六甲山は一気に開発が進んでいった。当時の唐櫃小学校は、施設が充実していたようだ。

2. 藍那の里山

■日本の原風景が残る里山

元々「あいの」と呼ばれていた。「中間」という意味で、播州と摂州の間にあるためそう呼ばれた。

集落は斜面にへばりつくように密集している。集落の裏山を越えると、日本の原風景を絵に描いたような里山がある。昔は溜池が100以上



藍那の里山風景

あり、炭焼き小屋も点在していた。藍那は木の質が良い。神戸層群という地層が帯を覆っているため、根の成長が抑えられ緻密な木質の木に育つ。化石もよくとれる。山が豊かなため、昔から藍那の人は冬場も出稼ぎに行かずに済んだという。

■藍那のみどころ

藍那で有名なのは「義経道」で、源義経が一ノ谷の合戦の際に通ったと伝えられている。文化財級の石造物もたくさんあり、特に有名なのが七本卒塔婆。木津側の藍那古道には磨崖仏もある。磨崖仏には文正2(1467)年の銘が入っている。藍那が昔から兵庫と播州を繋ぐ重要なルートだったのがよくわかる。

■藍那の暮らし

藍那は旗本領で、石高は江戸時代を通じて約550石だった。旗本は江戸にいたので管理が甘かったようだ。100戸程度の小さな集落にもかかわらず、明治初期には農村歌舞伎が3つもあった。豊かな暮らしをしていたように思われる。

3. 北六甲の魅力

■豊かな山田の里

藍那を含む13ヶ村は山田の庄と呼ばれた。豊かな土地で、江戸時代は多くが天領だった。山田の里も平清盛が手を掛けたところで、福原から丹生山に毎月、月参りに行っていた。

丹生山には明要寺というお寺があり、中世にはすごく賑わっていた。戦国時代、三木の別所氏を

秀吉が攻めたとき、別所方に味方したために焼き払われた。

■北六甲には貴重なものがたくさん残っている

山田13ヶ村の守り神、六条八幡には三重塔がある。重要文化財の立派な塔で、山田の里がいかに豊かだったのかがわかる。無動寺の仏さんは平安期のもので、素朴で力強い魅力のある仏さん。



無動寺の大日如来

箱木千年家は、室町時代に建てられた日本で一番古い民家だと言われている。農村歌舞伎の一番古いものも北六甲にある。このエリアには、優れた文化財がたくさん残っている。

質疑応答

藍那の里山に竹がはびこっているのを見たが？

放棄される田んぼが増えている。多くのNPOが整備活動を進めているが、荒れているところも増えている。

藍那のおすすめコースは？

すべておすすめ。冬の散策も、葉が落ちて見通しがよく、歩いても汗をあまりかかず快適です。

まとめ(鎌田さん)

南六甲はすごく華やかで活気があり、進取の気風があります。北六甲は、古いものや伝統を大事にしています。南に比べて落ち着いたエリアかなと思います。博物館に例えると、南六甲は流行の展示室、北六甲は歴史・文化の収蔵庫のような感じがします。

事務局より

六甲山の北面に目を向けて、六甲山麓の原風景といえる自然環境や懐かしい歴史・文化の息づかいを知りました。これらの魅力に触れて、残し伝えたい大切なものを再考する機会になりました。

六甲山の魅力再発見を多様多彩にしたいです。

◆参考・配布資料など

- ・パワーポイント：「北六甲の歴史点描」
- ・レジメ：「北六甲の歴史点描」
- ・地図3点：唐櫃詳細地図、山田・藍那詳細の地図、天保7年の古地図、
- ・藍那小学校を知ろう！！～イベント第3弾～『あいな小学校と里山めぐり』

鎌田 和見：くわた かずみ
神戸市立藍那小学校 教頭
〒651-1104 神戸市北区山田町藍那字蛇谷1-10
電話：078-591-0367 FAX：078-591-0377
e-mail:kaz-kuwata@sch.ed.city.kobe.jp

◆参加者の声

- ・まことに簡潔明瞭、藍那・唐櫃・山田の往古の姿を知った。
- ・平清盛と多聞寺・唐櫃、山田の里のつながりが興味深い。
- ・非常に興味深く拝聴、藍那の里を歩いてみたくなった。
- ・いつもながらアットホームで、ぜんざいが美味しかった。

◆参加者：28名(50音順・敬称略)

伊澤 信雄	泉 美代子	板野 武一	岩浅 敬由
岩木美寿雄	岡 敏明	岡 智子	岡谷 恒雄
尾崎 尚子	久保 順一	鎌田 和見	小泉美和子
高橋 貞義	高橋真理子	寺垣 耕平	殿井香奈江
富井 善之	堂馬 英二	堂馬 佑太	林 和俊
林 慶一郎	林 千寿	藤井宏一郎	松井 光利
村上 定広	森 康博	山本 悟而	矢仲 英俊